令和２年１１月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

Ⅰ．日　時　　令和２年１１月１９日（木）　１４時００分～１６時０７分

Ⅱ　場　所　　千葉大学けやき会館　レセプションホール（３階）

Ⅲ．出席者　　徳久学長、有馬、犬養、岩田、加賀見、香藤、河田、
黒木、島田、銭谷、西堀、萩原、舩橋、正宗、宮坂
中谷、渡邊、関、山田、松浦、小澤、中村、米村、
金原、中山、山本各委員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　角倉、山本各監事
（欠席者：堀委員各委員）

Ⅳ．前回議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．大学院園芸学研究院の設置について
中谷理事から、大学院園芸学研究院の設置について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

２．看護学研究科附属看護実践研究指導センターの名称変更について
中谷理事から､看護学研究科附属看護実践研究指導センターの名称変更について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

◎　英語名称について、Collaborating Center では違和感があり、Collaborative Center とした方が良い。

３．国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について
松浦理事から、令和２年人事院勧告のポイントについて説明の後、本勧告に伴う国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

◎　このコロナの状況下で、病院に勤務されている看護師の方々はかなり危険度の高い中で奮闘されていると思うが、一般のクリニックを経営されている方々とお話をしていると看護師さんがお辞めになって、看護ケア関係や訪問看護といった他の事業所等に転職していると聞く。千葉大学の附属病院では、看護師さんが退職するということは起きているのか。

○　ご心配ありがとうございます。確かに看護師の離職ということが問題になっていて、一部東京都内の私立の病院で給与が削減されることから大量の離職者が出たと

いうようなことがあったが、千葉大学医学部附属病院では、できるだけ看護師さんの心のケアあるいは仕事の負担にも配慮するとともに、コロナに直接対応している職員については、看護師あるいは医師等も含めて、特別従事手当を支給している。そのようなこともあって、例年よりも看護師の離職率が低くなっている。１２月、1月で状況が変わってくるとどうなるかわからないが、現在のところ先生にご心配していただいたようなことは起きていないということをご報告申し上げたい。

◎　医療現場以外で、学部あるいは研究科の先生方は、例えばテレワークを行って大変になっているのか。経営側として、学部、研究科の先生の労働実態についてどのように受け止めているかをお聞きしたい。

○　オンライン教育については、スマートラーニングとして準備をしていたが、初めての試みだったのでやはり個々の先生方には非常に負担がかかっていると思う。うまく移行できた先生と、なかなかうまくいかないという先生も恐らくいると思う。竹内副学長や小澤副学長が中心になってスマートラーニングを立ち上げてもらったが、ご負担は非常にあると思う。

○　教員側の対応で言うと、文部科学省が極めて厳格にメディア授業を規定していて、ただ単にメディアを使うというだけでなく、例えば双方向性を必ず確保することや、授業終了後の速やかな添削指導、質疑応答、学生間の意見の交換等が求められている。先生方にはそういう方向で行っていただきたいとお願いしているところだが、メディア授業になって受講者数が増えている科目が多く、負担は重くなっていると思う。

◎　民間企業では、ボーナスというのは利益の還元分という意味合いで、収支の差で残った利益がどれだけあるかで額が変わるのが普通である。業績が厳しい、環境が厳しいから、仕事を頑張らなくてはいけない。自分たちが貰うものと、自分たちの働きというものが直結しているということを肌で感じてもらうためにも、こういうことも必要ではないかと思う。今回の措置はごく普通のことではないかと感じる。

◎　一般社会で考えてみると、コロナの影響で経済的な動きが相当厳しい。ボーナスがほぼ０という企業もあるわけで、そういう中で、これだけ支給するのだから我慢してほしいということがあっても良いのではないかと思う。

◎　減額は、教職員の皆さんにとっては嬉しくないし、ディスカレッジの材料になることは間違いないと思うが、今の世の中の情勢、それから過去の人事院勧告がほとんどプラスの勧告でそれに全部従っていたということからすると今回はわずかでもあるので勧告どおりでやむを得ないと思う。ただし、それに伴う財源を有効に使うということを学内に示すことは必要だと思う。

Ⅵ．協議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．コロナ禍における大学の現状について

徳久学長から、コロナ禍における対面授業の意義について協議したい旨発言があった後、中谷理事から、本学における新型コロナウイルス感染者や飲食等によるクラスター発生防止のための取組について、小澤副学長から、第４ターム以降の授業の実施状況や来年４月以降の授業の在り方の検討状況等について、渡邊理事から、

来年３月の卒業式及び大学院修了式の開催予定について、横手副学長から、附属病院における新型コロナウイルスへの対応等について説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

◎　アメリカのイリノイ大学では、全ての学生が毎週ＰＣＲ検査をして、そのデータがスマートフォンに入り、それを入口でかざさないとキャンパスに入れないというシステムが出来ている。大阪市立大学でも、全員にＰＣＲ検査を行っているが、これは1回限りということである。それから京都産業大学がＰＣＲセンターを立ち上げている。千葉大学には医学部があるのだから、何か新しい形の検査体制を作れないのか。

○　自分たちで行う場合、臨床検査技師等をどのように雇用するかといったことが問題になってくるのかもしれない。附属病院では実際にどのような体制でＰＣＲ検査を行っているのか。

○　附属病院では、我々の病院を受診されたコロナに感染しているか不明な患者さん、あるいはコロナに感染している患者さんの治療経過中、それから全ての入院患者さんが入院した時に、それぞれの病棟で医師が検体を採取し、それを検査室に下ろして、１日２００検体までＰＣＲ検査をできるようにしている。外来の場合は広く患者さんを受け入れるキャパシティがないので、数名の感染制御部の医師が検体を採取してＰＣＲ検査を行っている。そのため、医師が検体採取するという場面がリスクになっているというのが現場の実感である。一般診療、コロナ診療を行いながら検体採取を行うので、もしもＰＣＲセンターを作る場合は、検体を採取するフローをしっかり確立して、そこに人的資源を投入しながら進めていくということが必須になると思う。現在行っているものの中で実施するのは難しく、新たな仕組みを立ち上げる必要があろうかと拝察する。

○　網羅的なＰＣＲ検査というのも一つの方法ではあるが、その是非についてはまだいろいろ議論があると思う。イリノイ大学のように１週間という短い間隔で繰り返していくのであればそれなりの意味があるのかもしれないが、スポットで検査してもその１週間後の保証は全くない。それから今、病院長が話されたように、人手その他を含めた費用対効果という点でまだはっきりとした結論が出ていないのではないかというのが私どもの実感である。日本でも網羅的にやっていくべしというご意見も強く出ているが、現場が動いてないということではないかと思う。

◎　日本は感染者数が少ないので費用対効果が非常に悪いと思う。１０人、２０人をまとめてプールして検査を行うのが一つの方法だと思う。検体採取は、唾液で行うのであれば、それなりに簡単にできるのではないか。ただ唾液中に酵素があって分解してしまう可能性があるので、あまり捕捉できない。今テレビのコマーシャルでやっているような、唾液を郵便で送れば検査できるというのは非常に問題だと思っている。そういった民間の検査に行く前に、きちんとした検査体制を作る必要があると思っている。

○　総合安全衛生管理機構には、１週間で１５名から２０名位の方から電話やメールで相談があるようだ。現状では、総合安全衛生管理機構が振り分けをして、必要があればＰＣＲ検査を行う形で対応できている。今後感染が非常に広がってクラスター的なことになれば、大学のお金を使ってでも広い範囲でＰＣＲ検査をしなければな

らないのではないかと思う。

◎　授業の場でクラスターが発生する可能性はほとんどないと思うが、その後、学生同士で会話をしたり、どこかに行ったり、そういう所でクラスターが発生しやすいので、そちらの方の教育を徹底することが大事だと思う。

Ⅶ．報告事項（◎学外委員、○学内委員）

１．学長選考結果について

宮坂学長選考会議議長から、１１月４日（水）に開催された学長選考会議において、中山俊憲副学長が次期学長候補者として選考された旨説明があった。続いて、中山副学長から、次期学長就任に向けての挨拶があった。

２．令和３年度概算要求について

松浦理事から、令和３年度概算要求に係る機能強化経費及び施設整備費の要求事項について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　災害治療学は、コロナのような感染症に対してもカバーするような内容だが、その辺りの考え方を教えていただきたい。

○　昨年度房総半島に大きな台風が二つ上陸して、地震以外の風水害も含めて災害時における急性もしくは数週間から数か月経った時期での治療をどうするかについて研究する研究所を作ろうというのが最初のアイデアだった。すでにあるいろいろな自然災害に加えて、新型コロナウイルスのような感染症も災害の一種であるというような位置付けも含め、実際にどのような対応や治療をすれば良いか研究を進める。このような取り組みはこれまで日本、世界でもほとんど行われておらず、特に医学部附属病院、それから薬学、園芸学、そして看護学の先生方と共にそういった災害時の患者目線に立った治療方法を届けるということをゴールに置きながら、研究と人材育成を行う研究所を作りたいということで今回提案させていただいた。

○　私なりの理解であるが、災害後の慢性疾患の悪化、定期的にいろいろなストレスがかかって、今まで経験のないような症状になっていくというところで、その辺りが研究対象になるのではないかと考えている。

３．令和２年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）選定結果について

中谷理事から、令和２年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）選定結果について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　最後の所見を読むと、千葉大学が非常に高く評価されていて大変嬉しい。その中で首都圏における研究大学の新しいモデルと言えるまでには達していないと感じるとの記載があるが、何が欠けているのか。学長にはそれが何か見えているのではないかと思うが、何かお感じになっていることがあればお話しいただきたい。

○　やはり若手研究者の育成だと思う。大学として大型予算も取ってきているが、やはり世の中を担っていくような若手研究者の育成がその次の仕事だと思っている。学生たちがキラキラと輝いている大学、首都圏にある大学は特にそれが要求されるのではないかと思う。

◎　本当に良いプランを提出されて、採択されて良かったと思う。千葉大学には日本で唯一の学部が意外とたくさんあって、園芸学部、国際教養学部、看護学部。日本の国立大学で唯一の学部を３つも持っているというのは、千葉大学の強みだと思うので、総合大学の中で大変ユニークな学部、大学院を持っているというこの強みを生かして、他の学部と連携協力しながら総合的な力を発揮していくということを是非この事業の中で取組んでいただければ良いと思う。それから、教育学部も旧７帝大が教員養成を行っていない中、教員養成を行っており、これも強みではないかと思う。

４．千葉大学統合報告書２０２０について

中谷理事から、千葉大学統合報告書２０２０について、資料に基づき報告があった。

以　上